

美術の技法・材料に関する広領域的研究 (美 03-06-1/5)

目 的

本研究は文化財にかかわる諸分野との提携によって、美術作品の多角的研究を目指すものである。具体的には美術作品が基盤としている材料や用いられた技法、制作の過程・作品の成り立ち、生成されてから今日に至るまでそれがどのように受容され、あるいは伝来してきたか等に関係の文献史料や、あるいは直接、作品に対しての科学的・光学的手法（X線透過撮影、蛍光X線非破壊分析、赤外線撮影など）による分析をも援用しながら解明し、美術作品を考究してゆくことを目的とする。

成 果

(1) 作品の調査・研究：本年度は以下の作品の調査を行った。

仏教彫刻の調査・研究

ア) 鎌倉時代の善光寺式模刻像の調査

- ・木型の可能性が考えられる尊像の調査（千葉・東光院観音菩薩立像）
- ・同一型から鑄造されたと考えられる尊像の調査（東京国立博物館、栃木・大乘寺、埼玉・龍高寺、長野・筑北村八木区、埼玉・天宗寺の各、阿弥陀如来立像）

イ) 天平時代の脱活乾漆像の調査（神奈川・龍華寺菩薩半跏像、兵庫・金蔵寺如来像頭部、香川・願興寺観音菩薩坐像）

ウ) 鎌倉末・南北朝時代の金泥塗像の調査（埼玉・長福寺阿弥陀如来坐像、千葉・常敬寺阿弥陀如来坐像）

近代絵画の調査・研究

- ・京都国立近代美術館蔵「卓上静物」1928年作、「横たわる裸女B」1928年作
- ・芦屋市立美術館蔵「ソファの裸女」1930年作（ガラス絵）、「裸女（赤いバック）」1930年作（ガラス絵）

(2) 彩色関係データ（語彙・史料編）の集積とホームページによる公開

美術工芸品の彩色を調べてゆくうえで、史料にあらわれた関係語彙とその使用例を総覧することを目的に彩色関係資料データベース（語彙・史料編）のデータ集積を行った。集積に際しては公刊史料（活字本）をもとに、その中から彩色関係の語彙の抽出につとめ、分類し、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙データベースをホームページにおいて公開するとともに、逐次、更新に努めた。

関連論文・発表等 3件

- ・津田徹英「三国をめぐる中世の仏教世界観とその造形への視座」 美術史学会全国大会招待発表 名古屋大学 06.5.27
- ・津田徹英「善光寺式阿弥陀如来像 仏像そのものを原型にして鑄造・増殖する作例の紹介」 美術部研究会 東京文化財研究所 06.6.28
- ・津田徹英「研究資料 善光寺式 阿弥陀如来像ならびに観音菩薩像」 『美術研究』391 pp.82-91 07.3

研究組織

中野照男、田中淳、津田徹英、塩谷純、綿田稔（以上、美術部）山梨絵美子、勝木言一郎、皿井舞、江村知子（以上、企画情報部）